

言格を導く経営

人必死の地に入れば、
心必ず決す。

絶体絶命の状況になれば、すべてのことが決断できる。

幕末維新の開明思想家 横井小楠



横井 小楠 よこいしょうなん

1809年～1869年。幕末・維新期の儒学者、思想家。熊本藩士に生まれて藩校の時習館に学ぶ。江戸に遊学して帰郷後、私塾を開き藩政改革を試みたが失敗。その後、思想に共鳴した越前藩主の松平春嶽のもとで政治顧問となり、江戸に招かれ幕政改革の助言者として活躍する。横井小楠の思想は、幕末から維新にかけて大きな指針となった。